

平成27年 1月25日(日)

まついおうけつぐん 松井横穴群 現地説明会資料

調査場所 京田辺市松井向山・上西浦地内
調査期間 平成 24年 1月23日～平成27年 2月下旬(予定)

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター
〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40-3
URL <http://www.kyotofu-maibun.or.jp>

はじめに

今回の松井横穴群の調査は新名神高速道路整備事業に先立ち、平成23年度に第1次調査を開始し、今年度の調査が最終の第4次調査となります。

横穴とは斜面に素掘りの穴を水平方向に掘り、埋葬施設としたものです。南山城地域では八幡市から京田辺市にかけて本遺跡のほかに、狐谷横穴群、美濃山横穴群、女谷・荒坂横穴群が知られており、横穴が集中する地帯の一つとなっています。

松井横穴の存在は、比較的早くから知られていましたが、本格的な発掘調査は今回が初めてです。

調査の概要

調査地は、南の丘陵地から北にのびる尾根筋の東西斜面にあたります。尾根西斜面に第12トレンチ、尾根の東側斜面に第4トレンチを設定しました。また、この尾根に対して北から谷が入り込んでいる地形があり、谷の西側斜面に第1トレンチ、谷の東側斜面に第2トレンチを設定し発掘調査を実施しました。調査の結果、古墳時代後期から飛鳥時代につくられ、一部は飛鳥時代末から奈良時代前半まで墓として利用されていた横穴が合計70基見つかりました。

横穴は斜面に対して、手前から墓道・羨道・玄室の順に、3つの部分で構成されていて、玄室に向かうにつれて標高が高くなるように掘削されています。墓道は入り口にあたる部分で溝状に掘られています(第2図)。

羨道・玄室は天井のあるトンネル状の空間です。残存状況のよい横穴では、羨道入口部の高さは0.7～0.8m程度で、横穴への出入りは、身を屈めた姿であったと想像できます。また、羨道と玄室の間に土を盛ることにより、玄室を閉塞していたことが分かる例があります。

玄室は死者を埋葬する空間で羨道部より幅広くなり奥行きは2～5mを測ります。天井は家の屋根を模したような形をしており、人が立てるだけの高さがあったとみられます。玄室内からは、副葬品として須恵器が多く出土しました。そのほか少量の土師器のほか、鉄鏃・刀

子・鉄刀などの金属器、耳環などの装身具類が出土しています。

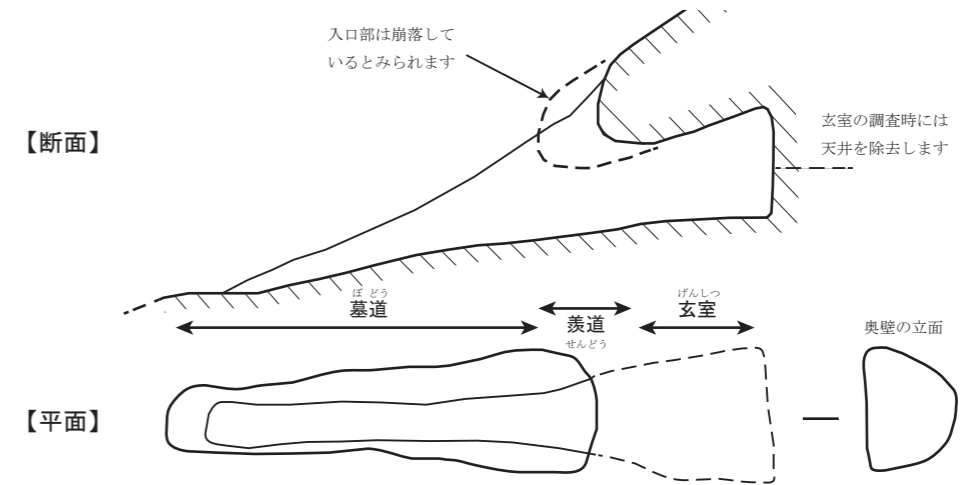
玄室からは2～3体程度の人骨が出土しているものが多く、大部分の人骨は、追葬時などに遺体が動かされて埋葬されたときの位置を留めていないとみられます。玄室内の人骨の検出傾向として、頭蓋骨が羨道側に、大腿骨が奥壁側から検出される場合が多くなっています。また、頭蓋骨の下に須恵器の杯を枕として利用したと考えられる例や、頭蓋骨の両側に耳環が残っている例もあります。

横穴の中には鉄釘が出土するものもあり、こうした横穴では遺体は木棺に納められていたと考えられます。また、1トレンチのSX0111からは陶棺が見つかりました。素焼きの焼き物で上半部に突帯をめぐらし、上



- 横穴・古墳
- 1. 松井横穴群
- 2. 女谷・荒坂横穴群
- 3. 美濃山横穴群
- 4. 狐谷横穴群
- 5. 柿谷古墳
- 6. 御毛通古墳群
- 7. 天神社古墳群
- 8. 口仲谷古墳群
- 9. 美濃山廃寺
- 10. 新田遺跡
- 11. 魚田遺跡
- 12. 門田遺跡

第1図 遺跡位置図(国土地理院1/2,500 淀)



第2図 横穴の模式図(女谷・荒坂横穴群37号がモデル)

面に方形の孔を開け、蓋が付きます。奈良市の宝来横穴第6号墳に似た例がありますが、一般的に知られる陶棺よりもかなり小さく、珍しいものです。

なお、SX0407からは灰釉陶器、SX0104・SX0402からは瓦器碗が出土しています。平安時代や鎌倉時代に、墓として再利用されていたようです。

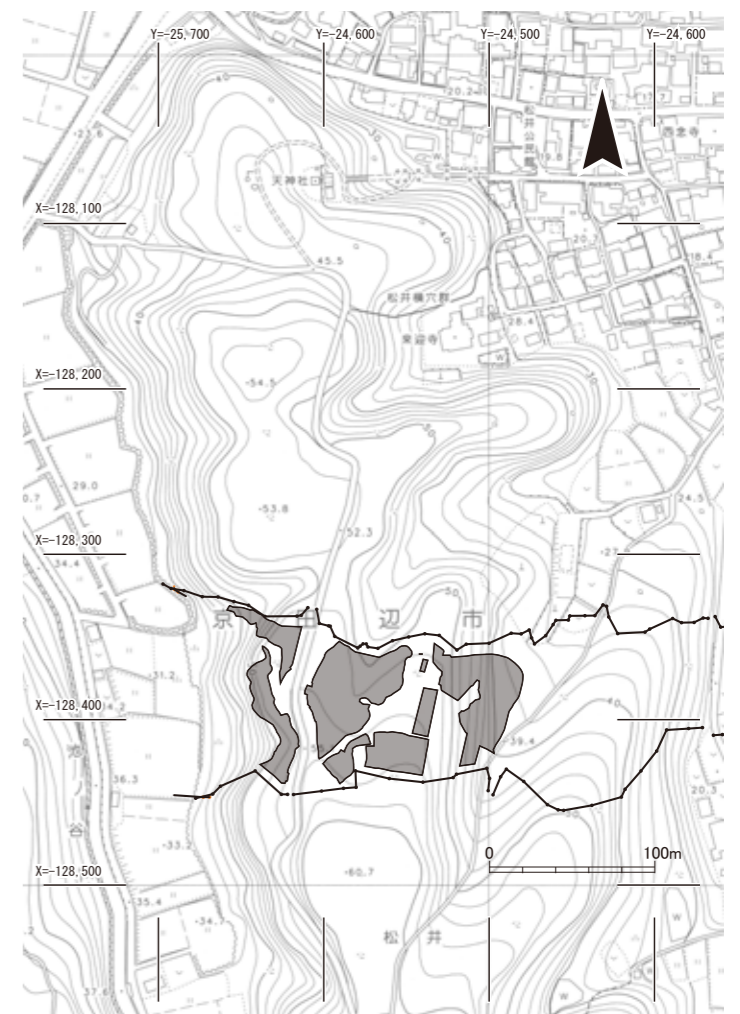
まとめ

今回の発掘調査地内では、高い密度で70基の横穴を確認しました。一般的に古墳時代後期は、群集墳が造られる場合、石を用いた横穴式石室を埋葬施設として採用し、墳丘を持つ古墳が密集して造られます。それに対して八幡市から京田辺市にかけての丘陵上には横穴式石室墳が少ないという特徴があります。埋葬方法や副葬品の様相は、横穴と横穴式石室墳に大きな違いがなく、横穴も群集墳の一類型として捉えることができます。この地域では横穴式石室を造るための石材を得にくいことから、横穴という墓制を採用した可能性もあります。また、一般的な横穴式石室墳よりも、鉄鏃や鉄刀といった、武器の出土量が極めて少ないことが特徴的といえます。これらの特徴から、横穴群に葬られた人々は支配者階級ではないと考えることができます。

松井横穴群を含めた直径1.5kmの範囲に、女谷・荒坂横穴群、狐谷横穴群、美濃山横穴群があります。松井横穴群は、これらと一体となった横穴群と考えられます。今回、見つかった横穴は70基ですが、周辺の地形からさらに多くの横穴が埋没しているものと考えられます。これまでの周辺部の調査成果から、数百基の横穴が存在するものと想定されます。女谷・荒坂横穴群を含め、当地域に造られた横穴群には八幡市・京田辺市域の人々だけでなく広範囲の人々が埋葬された可能性も考えられ、横穴式石室

の少ない南山城の墓制の特色を示していると考えられます。

このように、今回の調査では、南山城では古墳時代後期に横穴が墓制の主体として展開していることが明らかになり、古墳時代の墓制のあり方を考える上で貴重な成果を得ることができました。



第3図 調査地周辺地形図(八幡市都市計画図『美濃山』)



SX1210 遺物出土状況（西から）
お供えとして副葬された須恵器・土師器



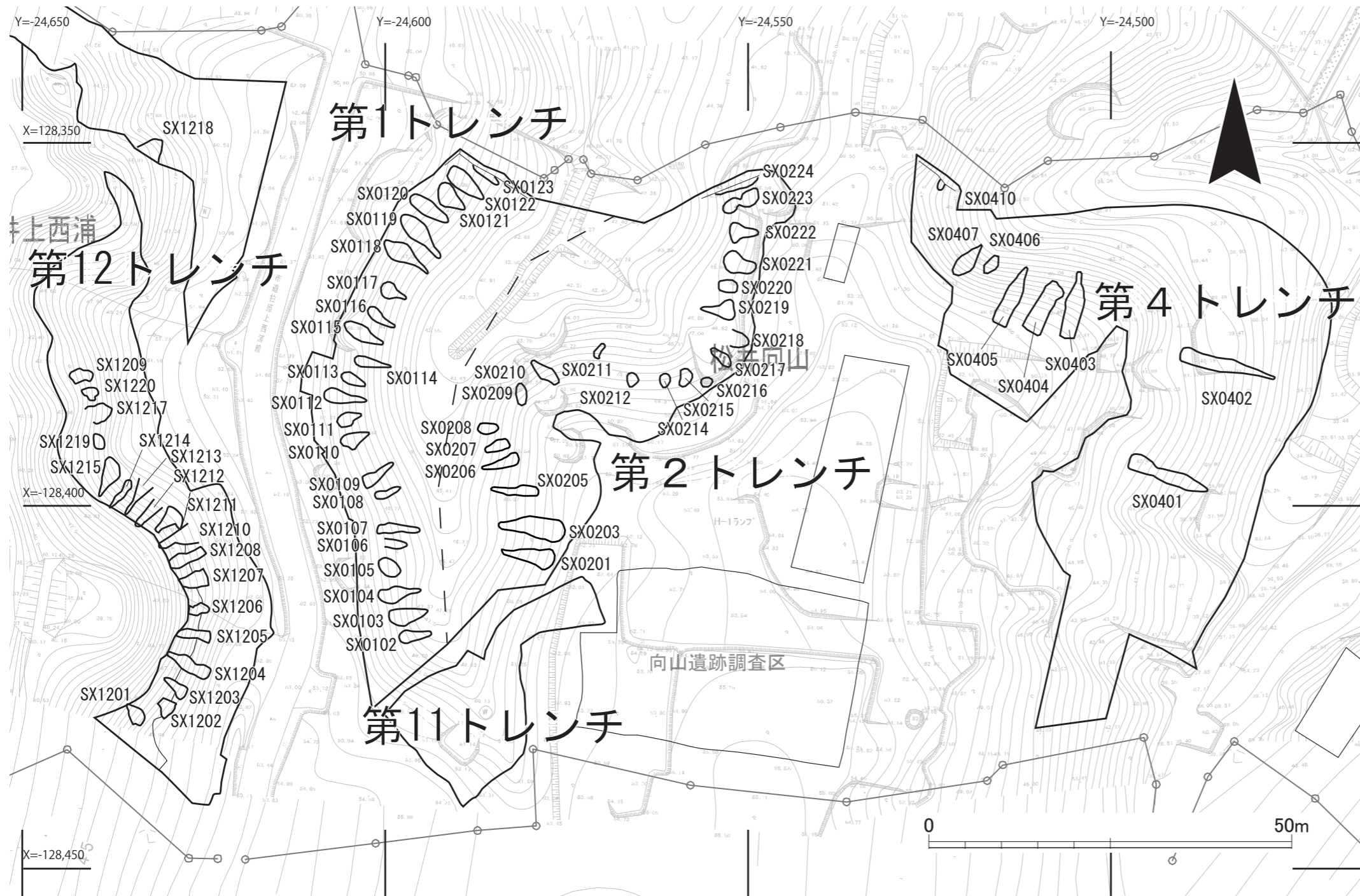
SX0111 陶棺出土状況（北から）
上に穴が開き、手前に方形の蓋が見られます



SX0121 遺物出土状況（東から）
骨が次の埋葬によって動かされています



2トレンチ天井残存状況（西から）
天井を外す前の横穴の入り口



第4図 遺構配置図



SX0221 遺物出土状況（東から）
入り口側に三つの頭の骨が並んでいます



SX0212 遺物出土状況（北から）
大腿骨が奥に集められています



SX0401 遺物出土状況（東から）
大きな横穴ですが副葬品が少ないです